

第 30 章 倒置構文

A. 基本的倒置

文中のある語(句)を、強調するために文頭に出すことにより、SV の語順が逆になる表現形式を、『倒置』という。

【例 1】 A white building stands just across the street.
S V

Just across the street stands a white building.
V S

ちょうど通りを横切ったところに、白い建物がある。

[注 1] この構文は、文語的表現であり、口語ではまず見られない。日本語に訳す場合は、それなりに適当に訳せばよい。

[注 2] 主語が代名詞のときは、倒置されずにそのままか、《do(助動詞) + SV》の形をとる。これは、代名詞は短か過ぎて文尾に置くと、全体のバランスがくずれるからである。つまり、バランスをとるための形である。

【例 2】 { The boy walked very quickly.
Very quickly walked the boy.
V S
He walked very quickly.
Very quickly he walked. = Very quickly did he walk.
S V

【例 3】 { He will never admit the fact.
Never will he admit the fact.
彼はその事実を決して認めないだろう。

[注 3] 否定語を文頭に出した倒置構文は数多い。

【例 4】 { I have never seen such a beautiful sight.
Never have I seen such a beautiful sight.

彼はそんな美しい光景を一度も見たことがない。

【例 5】 { He little thought that he would be elected chairman.
Little did he think that he would be elected chairman.

彼は、議長に選ばれるとは全然思いもしなかった。

この、little の使い方には注目しよう。述語動詞の前に置かれると「ほとんど～ない」という意味ではなく、「全然～ない」という意味になる。

[注 4] 目的語を文頭に出しても、S Vの語順はかわらない。この理由は説明しづらいし、説明しても諸君の年齢では理解しづらいもので、『そんなもんか』ぐらいにとどめておけばよからう。

- 【例 6】
- The boy hated such a fool play.
 - Such a fool play the boy hated.

[注 5] 強調のためではなく、ただ、2文のバランスをとるためにだけ倒置されることもある。

- 【例 7】
- The mother who had been waiting for her little son to come to kiss her was sitting up in the bed.
 - Sitting up in the bed was the mother who had been waiting her little son to come to kiss her.

母親は、ベッドに坐って、息子がキスをしに来るのを待っていた。
このあたりの表現になるともはや単なる文法的ルールではなく、表現する人の文学的美感の領域になる。

[注 6] 最後に、言葉には「話し言葉(口語)」と「書き言葉(文語)」があり、倒置表現は主に文語で使われるものだが、実は口語でもあるんだな。基本に戻ってごらん。疑問文はどうかい?。そう、倒置することによって、「オレは尋ねてんだぞ!」というシグナルを送ることになるんだね。

- 【例 8】
- Are you a high school student ?
 - Don't you remember seeing him at that bar ?
 - Have you ever climbed Mt.Fuji ?

プラクティスパート7の1pの **1** をせよ。